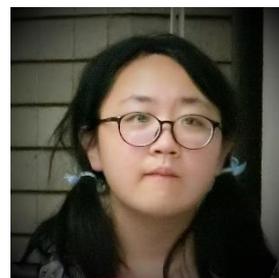


## 友好都市一日本柏市に訪問に当たって ---河北承德第一中学校 劉 美雲

携帯アルバムの2018年8月25日の写真は私の中で一生忘れられないものとなった。この日は5日間の日本柏市への訪問を終え、帰国した日でもあった。



来日した日は、少し前まで学校の教室で一生懸命勉強したのに、いつの間にか飛行機にのり、3時間の飛行を経て、気付くと日本に着いていた。日本については本などを通して、多少知っているつもりでいたけれど、実際現地に着いてみたら、その民度の高さは私の想像を超えていた。きれいな街並み、礼儀正しい人たち、静かな電車の中など、どれも印象深いものばかり……。そして勿論、一番印象深かったのは柏市国際交流センターの優しい人たちだった。

訪問初日、柏市に到着したときには、もう夜の9時を過ぎていた。バスの中では、優しい会長が私達とホストファミリーの名前を印字した扇子やお菓子などを配ってくれた。その細やかな気配りと優しさに、私は大変感動した。そして、柏市役所に着いた時に迎えに来てくださった人たちは、いまだ熱気溢れる8月に冷房のつけてないホールで横断幕を持って待っていてくれた。その時の感動は言葉では言い表せない。

### ホストファミリー

バスを降りてからはすぐ、私と同じ模様の扇子をもっているホストファミリーのご夫婦を見つけた。年齢は70歳過ぎだと聞きましたが、目がキラキラと輝き、とても元気な方たちだった。短い挨拶をしてから、私達はホストファミリーのお宅に到着した。爽やかな檀香が漂う典型的な日本式住宅だった。朝、家から出てみると、清々しい空気の中、きれいな庭が輝いて見えた。ホストファミリーの石井さんと奥さんは、私たちの為にバスタオルなどいろいろなものを準備してくれていた。また、奥さんは私たちが日本に来て慣れないかもしれないと心配して、わざわざ朝食にご飯とパンをどちらが良いか聞きにきた。朝食と夕食以外にも、家にいると、いつも沢山のおいしい食べ物を出してくれた。まさに家中のおいしいものを全部出すような勢いだった。私に本格的なおいしい重を食べさせる為、フリータイムを利用して、自ら運転して遠く離れた成田山まで連れて行ってくれた。言葉が通じず、心一杯の感謝を表せなかったのが心残りだった……。見ず知らずの異国の他人なのに、このような心を込めたおもてなしや気遣いをしてもらい、その喜びと感動で心の中はいっぱいだった。別れた日に、車窓越しに私はじっと石井さんの顔を見つめました。少しでも多くその顔を見て、一生忘れられないようにしておこうと自分に言い聞かせていた。

### 柏市での交流

二日目には、柏市役所へ表敬訪問をした。そこは厳粛で活力のあふれるところで、思わず緊張してしまった。私達は市議会も訪問し、議会についての紹介のVTRをみて、議会制度について、より理解することができた。幸運なことに、柏市長ともお会いするこ

ともできました。市長は若くて、紳士的で、かっこいい方だった。短い交流だったが、日本の高校教育などについて知ることができた。この高校では、学生の勉強だけではなく趣味や生活能力なども重視し、小人数クラスを採用しているようだ。だからこそ、先生が一人ひとりへの気配りができ、一人一人の特徴や趣味を把握することができるのだと思う。市長からは、私たちが一生懸命勉強したことを誉めてもらい、これからも頑張ってもらいたいと言ってくれた。私たちもその気持ちをしっかりと受け取った。この日は、有志の人たちがずっと私たちに付き添ってくれた。歴史文化施設や、グルメ、そして、生け花などの日本文化なども教えてくれました。その日の夜に、歓迎晩さん会もあり、私はその際に、承德市と柏市の更なる交流を進め、共通点を求め相違点を残すという原則に基づいて、共同発展し、相互の友好関係が末永く続くよう切に希望することを話した。

### 東京にて

東京での旅は、私にとって、かなりの忘れがたい体験になった。電車内には、きれいなトイレもあり、先進的な国でのヒューマニゼーションをリアルに体験できた。また、車内での静かさはまるで図書館のようで、大声でしゃべる人はひとりもいなかった。このような光景は、わが国では滅多にみることはできない。こうした側面からもこの国の民度の高さを感じることが出来た。私たちが見習うべきところでもあると感じた。東京での観光は風雨の中行われた。雨の中、私達は観光船にのり、幾つかの橋を潜り、川沿いの風景を鑑賞した。雨の中の独特な朦朧とした風景はとても美しかった。ほかにも水族館、浅草寺駅近くの博物館なども見学し、どれも印象深いものばかりだった。

この5日間を振り返ってみると、本などで勉強する時間は少なくなったけれど、私にとって、それよりもっともっと貴重なものを得ることができた。この体験は、私にとって、一生忘れられないものなると思う。私は柏市、そして、柏市の人たちが好きだ。別れの日、車窓の向こうに段々後ろに過ぎていく見送りの人たち、安全検査入口の外で手を振っている人たちをみて、思わず胸が熱くなり、涙がでてきた。

この私の今後の力と希望になった貴重な体験を胸に、再び学校に戻った。中日関係の改善は民間からと思い、微々なるものだけれど、これから一生懸命頑張りたいと思う。